

令和6年度
第2回学校運営協議会 議事録

1. 日時 令和6年11月29日(金) 午後2時00分～午後3時45分

2. 場所 実習棟2階 会議室

3. 出席者

学校運営協議会委員(6名)

- 後援会会長 川口 雅夫
- 学校医兼産業医 田中 孝二
- ユービック情報専門学校前校長 北村 翼
- 大阪府立茨木工科高等学校 前准校長 小川 寿之
- 保護者 中田 愛
- 保護者 松本 道代

教職員(8名)

- 准校長 井上 直人
- 教頭 佐々木 博章(事務局長)
- 首席 播田 晃久
- 教務主任 中村 有佑
- 生活指導主任 平山 篤
- 進路指導主任 岩永 満
- 保健指導主任 小池 隆一
- 書記 日置 鷹飛

(以上全14名)

4. 次第

- 開会の挨拶
- 会長挨拶
- 令和6年度 本校教育活動について報告
 - (1) 令和6年度学校経営計画及び学校評価 進捗状況報告
 - (2) 各分掌からの進捗状況報告
 - 1) 教務部 2) 生活指導部 3) 進路指導部 4) 保健指導部
- いじめ等に関するアンケート 進捗状況報告
- 授業アンケート 進捗状況報告
- その他
- 閉会の挨拶
- 事務連絡

5.議事の内容

○ 開会の挨拶（准校長 井上）

- 大阪府の高校では教育 DX が加速しており、令和 7 年度入試に向けたデジタル採点やデジタル出願の準備を進めている。
- 教職員へのパソコン配布や無線化は進んでいるものの、情報管理等の課題もあり、対応に苦慮している。
- 今年度は全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会において、本校生徒が生活体験発表部門で大阪 2 位、全国大会では「文部科学省初等中等教育局長賞」を受賞し、教育庁へ訪問するなど学校全体で盛り上がる出来事があった。
- 生徒指導上の課題は依然として存在する。
- 本日の協議会を通して、学校運営の充実に向けた意見交換を行い、さらなる発展につなげたい。

○ 会長挨拶（後援会会長 川口）

- 情報過多の現代社会において、本当に必要な情報が伝わりにくいという課題がある。
- デジタル化の進展により情報量は増加する一方であり、重要な情報を伝えるには、従来の師弟関係のように少人数・1対1でのコミュニケーションが有効である。
- 本校の教職員には、生徒一人ひとりに寄り添った指導・教育を実践し、より良い教育を提供していただきたい。

○ 令和 6 年度 本校教育活動について報告

(1) 令和 6 年度学校経営計画及び学校評価 進捗状況報告（准校長 井上）

- 資料に基づき、各分野における進捗状況を報告。
- 中期報告資料は、当初 A4 サイズで作成していたが、誤りが複数見つかったため、修正版を A3 サイズで配布した。
- 前回（第 1 回学校運営協議会）の指摘事項については、資料を修正し、委員会にも報告済み。

(2) 各分掌からの進捗状況報告

1) 教務部（教務主任 中村）

- 資料に基づき、生徒の在籍状況、出席状況、成績不振者数、全科目修得予定者数等について報告。
- 資料の訂正をお願いしたい。11 月 25 日時点での在籍者数 43 名⇒42 名
- 在籍者数は、1 年生 15 名、2 年生 8 名、3 年生 10 名、4 年生 9 名の計 42 名。
4 月当初から 1 名が退学となった。
- 前期末時点の出席状況は、3 分の 1 以上欠席している生徒が 1 年生で 6 名、2 年生で 1 名、3 年生で 0 名、4 年生で 1 名。
- 1 年生の 3 分の 1 以上欠席者が多い要因として、入学当初から欠席している生徒が 3 名いることが挙げられる。
- 成績不振者も 1 年生が 8 名と比較的多く、2 年生 1 名、3 年生 2 名、4 年生 2 名、計 13 名。
- 全科目修得予定者は 1 年生 5 名、2 年生 2 名、3 年生 6 名、4 年生 2 名の計 15 名。

- 全教職員で協力し、全生徒が全科目修得できるように指導していく。
- 今年度は、皆勤賞の対象生徒はいない。精勤対象者は昨年に比べ増加している。
- 令和7年度使用の教科書については、教科書選定委員会で選定を行い、10月に教育長より採択された。
- 新学習指導要領に基づいた教科書となるため、周知をお願いしたい。

2) 生活指導部（生活指導主任 平山）

- 夏休み明け以降、生徒たちは落ち着いて学校生活を送るようになり、担任との面談を通して自分の気持ちを伝えることができるようになってきた。
- 生徒会活動では、生徒主導で学校PR活動を行うなど、積極的な動きが見られる。
- 夏季休業中にはインターンシップとして自衛隊の職業体験活動を実施。
- 各学年の様子：
 - 1年生：学校生活に慣れてきているものの、個別の支援・配慮が必要な生徒が多い。
 - 2年生：学校生活には慣れてきているものの、要領が良くなり、粘り強い指導が必要。
 - 3年生：卒業予定者3名は進路が決定。
 - 4年生：進路決定した仲間の影響もあり、進路について真剣に考える生徒が増加。
- 学習面では、進学希望の生徒を中心に、放課後個別指導を受けるなど、学習意欲の向上が見られる。
- 前期は授業中のスマートフォン使用が多く見られたため、教員全員で授業中の見守り指導を実施。
- 1時間に2名体制で校内を巡回する「授業中の見守り指導」を実施し、生徒への声かけや悩み相談対応などを行うことで、授業中の離席や欠席は減少傾向にある。
- 行事：
 - 文化祭：地域住民80名が参加。
 - 球技大会：1月24日に実施予定。
 - 部活動：自動車部、写真部、バスケットボール部が公式戦や大会に出場。
 - 第58回大阪府実業高等学校定時制の過程総合体育大会への出場記録の報告
 - バスケットボール：本校から2名参加。合同チームで出場。
 - フットサル：8チーム中7位。最初は3名で戦っていたが、終盤で5名となった。
 - バドミントン：出場予定。
 - バレーボール：生徒のスケジュールが合わず、棄権。
- 生徒が主体的に活動する機会が増え、社会性を育む上で効果が出ている。
- 10月21日には人権ホームルームを実施し、人権啓発資料を配布。
- 今後は振り返りを通して、さらに内容を充実させていきたい。

3) 進路指導部（進路指導主任 岩永）

- 就職希望者全員が正規雇用を希望している状況の中、職場見学率100%、正規雇用率100%を達成。
- 職場見学は13件実施し、目標としていた100%を上回る130%を達成。
- 就職内定率は、就職希望者10名中9名が内定しており、残り1名は12月5日の結果待ち

のため、現状は 90%。

- 進学希望者 2 名は、2 名とも合格しており、100%の合格率を達成。
- 進学先一覧について修正をお願いしたい。大阪信愛女学院⇒大阪信愛学院大学。
- 今年度は、整備士、電気工事士など、多様な就職先への就職が実現。
- 専門学校である「総合学園ヒューマンアカデミー I T カレッジ大阪心齋橋校」への進学については、特待生制度を利用。
- 求人状況は、8 月末時点で 472 件、10 月現在で 671 件。
- これに加え、求人サイトを利用することで、800 件以上の求人情報を確認できる。

4) 保健指導部（保健指導主任 小池）

- インフルエンザやコロナウイルス等の感染症流行は見られない。
- 11 月には 2 回目の安全点検を実施し、各教職員が担当箇所を点検。
- 点検結果については、資料に記載の通り。

○ いじめ等に関するアンケート 進捗状況報告（首席 播田）

- 現行のいじめ定義について、改めて説明。
- いじめ防止対策推進法第 2 条に基づき、「いじめ」は、被害児童生徒が心身の苦痛を感じていることを前提として認定される。
- 従来のように、教員が「いじめではない」と判断して対応を怠ることは、国として認められていない。
- いじめにより、児童生徒の生命、心身または財産に重大な被害が生じた疑いがある場合、または相当の期間（目安として 30 日）学校に通えない状態になった場合は、「いじめ重大事態」として認定し、適切な対応を取ることが求められる。
- 大阪府では、いじめ重大事態発生時には、教育委員会への報告、第三者委員会による調査、知事への報告等、厳格な対応が求められる。
- いじめの解消は、いじめ行為が止み、被害児童生徒が苦痛を感じていない状態が少なくとも 3 ヶ月以上継続することをもって判断する。
- 6 月 4 日に実施した第 1 回いじめアンケートの結果、いじめと判断される事案はなかった。
- アンケートで「ある」と回答した生徒については、担任、教育相談委員、指導主任による聞き取り調査を実施し、今後の対応を検討。
- 聞き取り調査の結果、多くの生徒が「なし」に変更。
- 具体的な事例として、現金や物品を隠されたと回答した生徒については、全日制の教員が忘れ物と誤認して職員室に保管していたことが判明。
- また、友人関係のトラブルを訴える生徒については、継続的な見守りを実施。
- 全体的に深刻な問題はなく、平和な状態。
- 第 1 回アンケート後、いじめの定義に該当するとして認定された生徒が 1 名いた。
- 3 ヶ月間の見守り支援の結果、現在は解消したと判断。
- いじめの認知については、委員会に報告し、文部科学省へ報告する。
- 第 2 回アンケートでは、友人関係のトラブルを訴える生徒が 1 名。
- 行事中に冷たい言葉をかけられたことが原因だが、現在は解消。

●継続的な見守りを継続。

○ 授業アンケート 進捗状況報告（教頭 佐々木）

- 授業アンケートは、教員が生徒の意見を聞き取り、授業改善に活かすことを目的として実施。
- 授業アンケートの実施により、教員が授業改善に取り組むことで、生徒の学校生活が充実し、楽しくなることが期待される。
- アンケート結果を分析することで、生徒が授業をどのように受け止めているかを把握し、授業改善につなげることが重要。
- 今年度の第1回授業アンケートは、7月19日（終業式）に実施。
- 授業がない日だったため、出席者が少なく、回答率は昨年度の94.9%から84.2%に低下。
- 30日以上欠席している生徒については、対象から除外。
- インターネットを通じて回答する方式になったため、回答に戸惑う生徒もいた可能性がある。
- 回答率は低下したものの、データ上は昨年度第1回目と比較して、全項目において肯定的な回答が増加。
- 回答者数が少ない場合は、平均値に偏りが生じる可能性があるため、注意が必要。
- 今年度は、生徒が回答しやすいよう、質問項目を具体的に変更。
- 新学習指導要領では、「個別最適な学習」と「協働的な学び」が重視されている。
- 従来の一方向的な授業では、生徒のニーズに合致しない可能性がある。
- 第2回アンケートの結果と合わせて、改めて分析し、報告。
- 特に、生徒が授業を通して「何ができるようになったか」を意識した授業改善が必要。

○ その他

●質疑応答

- 委員より、今年度の退学者数が1名と少ない理由について質問。
- 准校長より、例年より学校生活に落ち着いて取り組む生徒が多く、進路が決まってから退学する生徒が1名いたことを説明。
- 委員より、入学当初から欠席している生徒や、原級留置生で欠席している生徒への対応について質問。
- 准校長より、入学当初から欠席している生徒については、保護者と連絡を取り、今後の対応を協議中であること、原級留置生の状況については、把握できていないことを説明。
- 委員より、多様な生徒のニーズに対応するため、教職員の増員や、きめ細かい指導体制の構築が必要であると指摘。
- 准校長より、教職員の負担軽減や、生徒一人ひとりに寄り添った指導体制の構築に努めていくことを表明。
- 委員より、三島小学校への出前授業の内容について質問。
- 准校長より、ステッカー作り、木製ベンチ作成、自転車のパンク修理の3つの内容で実施していることを説明。
- 委員より、京都府では高等専修学校が減少し、通信制高校が増加している現状について説明。
- 委員より、保護者からは、高等専修学校のような、より実践的な学びを提供する学校への

ニーズがあると指摘。

○准校長より、大阪では高等専修学校と通信制高校が連携し、高校卒業資格を取得できる制度があることを説明。

○委員より、高等専修学校と連携する場合、費用面で負担が大きくなるという課題を指摘。

○准校長より、保護者からは「高校卒業」という資格を求める声が多く、通信制高校への移行が進んでいる現状を説明。

○ 閉会の挨拶（准校長 井上）

●協議会の開催により、学校運営の改善に向けて取り組む意欲が高まった。

●本校は、工科高校としての特色と、定時制高校としての柔軟性を活かし、生徒の成長を支援していく。

●委員各位には、引き続きご支援、ご協力をお願いしたい。

6. 事務連絡（教頭 佐々木）

●次回（第3回学校運営協議会）は令和7年2月6日（木）に開催予定。

●委員名簿の訂正：

（正）5番：中田 愛

（正）6番：松本 道代

以上

令和6年11月29日（金）

大阪府立茨木工科高等学校 定時制の課程

准校長 井上 直人